



かわぐちしらやまひめ 川口白山比咩神社の石造物

県道久居美杉線を西へ進み、一志白山トンネルを抜けると左側の山裾に、参道の入り口を示す石の鳥居が見えてきます。この山の頂上に川口白山比咩神社があり、江戸時代に建立された本殿は県指定有形文化財となっています。本殿は覆屋の中にあり、軒回りは豪華な彫刻や華麗な色彩が施されています。今回は、この神社の境内にたくさんある石造物の一部を紹介します。

本殿に向かう石段を登ると西側の脇に、室町時代でも比較的古くに造られたとされる全高133cmの石造宝塔があります。石造宝塔は、塔身が円筒形で基礎と笠の平面が四角形の塔のことをいいますが、中世に造られたものは少なく、県内では伊賀地域で鎌倉時代に造られた例が若干知られるだけで、伊勢地域ではあまり例がありません。塔身や笠の裏に施されている木造建築の構造を模した手の込んだ表現や、相輪先端を欠く以外は各部がそろっている点から、この石造宝塔は貴重なものといえます。

本殿の東側には、竿に「元亀四(1573)天癸酉

八月吉日」「施主 善衛門 助之尉」と寄進者の氏名が刻銘された全高206cmの石造灯籠があります。六角形の中台側面にあしらわれたさまざまな花木のレリーフや巴文の装飾的な表現に特徴があり、室町時代の重厚さと安土桃山時代の華麗さを兼ね備えています。また、基礎から宝珠まで完全に残っている点も価値が高く、本殿同様、県指定有形文化財となっています。

まだまだ寒い日が続きますが、暦の上ではすっかり春です。天気の良い日に、一度石造物を巡ってみてはいかがでしょうか。



石造宝塔



石造灯籠

